

笹川保健財団 研究助成
助成番号：2020A-001

2021年9月14日

公益財団法人 笹川保健財団
会長 喜多悦子 殿

2020年度笹川保健財団研究助成
研究報告書

標記について、下記の通り研究報告書を添付し提出いたします。

記

研究課題

「進行がん患者と家族の食に関する苦悩」の評価尺度の信頼性と妥当性の検討

所属機関・職名 国立がん研究センター中央病院 緩和医療科 医長

氏名 天野 晃滋

1.研究の目的

本研究の目的は「進行がん患者と家族の食に関する苦悩」を定量する評価尺度を新規に開発し、その信頼性と妥当性を検討することである。研究者自身が行った先行研究を含む国内外の先行研究から項目を抽出して評価尺度を作成し信頼性と妥当性を検討する。信頼性は、内的一貫性、再試験法による信頼性を測定する。妥当性は、因子妥当性、患者の食事の摂取量/パフォーマンスステータス/がん悪液質の程度による既知集団妥当性、患者・家族の精神的健康度（不安抑うつ）との並存的妥当性を調べる。

2.研究の内容・実施経過

新規開発した尺度を使用し患者と家族それぞれの食に関する苦悩と患者因子（年齢・性別・がん病名・Body Mass Index (BMI)・体重減少率・Eastern Cooperative Oncology Group performance status (ECOG PS)・治療場所・治療状況・Nutrition Impact Symptom (NIS)・食事摂取量 (ingesta-Verbal/Visual Analogue Scale: ingesta-VVAS)・家族の有無など）あるいは家族因子（年齢・性別・患者との続柄など）との関連性を検討する。また患者と家族それぞれの食に関する苦悩とうつ (PHQ-9 Depression Test Questionnaire) との関連性を調べる。

3.研究の成果

当初の予定より遅れたが、2020年7-10月でDevelopment phaseを完了させることができ、11-12月で得られたデータを解析しValidation phase/Retestの準備を終え、2021年1-7月でValidation Phase/Retestのデータ取得を完了させることができた。現在、順調に解析を進行させており12月には予定している解析をすませることができると思われる。

4.今後の課題

今後、進行がん患者と家族の食に関する苦悩に対する多職種連携した統合ケアの開発を予定しており、そのケアの効果を評価するため今回の新規開発した尺度を使用することを検討している。

5.研究の成果等の公表予定（学会、雑誌）

2022年3月末までに論文化を目指す。投稿先としてJournal of Cachexia Sarcopenia and Muscle（Impact factor: 12.910）を予定している。また国内外での学会（International Conference on Cachexia, Sarcopenia and Muscle Wasting・日本緩和医療学会・日本がんサポーターケア学会など）での発表を予定している。